

令和元年6月3日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26293483

研究課題名(和文)心理教育実践看護師を育成するブレンド・ラーニングシステムの構築と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of a blended learning-based psychoeducation practitioner training program

研究代表者

松田 光信 (Matsuda, Mitsunobu)

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：90300227

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、eラーニングと演習を組み合わせ、心理教育実践者を育成する Blended Learning Systems(BLS)を開発し、その有用性を心理教育実践能力の観点から評価することであった。対象は精神科病院に勤務する看護師とし、BLSを導入とした。対象者は、53名であった。実技演習後の参加者の価値はEBPAS下位尺度のOpenness ($p<.01$)、Appeal ($p<.01$)へと有意に向上し、意欲はWMMSN総合得点 ($p<.01$) およびISPN総合得点 ($p<.05$)において有意に向上し、技術は自作質問紙総合得点 ($p<.01$)が有意に向上した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

eラーニングによって心理教育を学ぶことは、対象者にとって難易度が高いようであった。しかし、eラーニングで学習した後に行なった心理教育の実技演習は、対象者の心理教育に関する実践能力を有意に向上させていた。実技演習を主軸とする研修会を継続し、心理教育を実践する看護師を増加することができれば、統合失調症患者の服薬アドヒアランスの改善、再発予防、QOL向上に寄与できると考える。

研究成果の概要(英文)：[Objective] To develop a blended learning-based psychoeducation practitioner training program combining e-learning and skill training (BL program), and evaluate its usefulness for improving the psychoeducation-related competency of participating nurses. [Methods] Subjects: Nurses working in psychiatric wards were selected. [Results] There were 53 participants. Favorable changes were observed in the participants' skills after skill training. Scores from the EBPAS representing value supported this, as there were significant increases in subscale scores related to openness ($p<0.01$) and appeal ($p<0.01$). Similarly, the total WMMSN ($p<0.01$) and ISPN ($p<0.05$) scores representing motivation, and scores from the skill questionnaire ($p<0.01$) significantly increased.

研究分野：精神看護学

キーワード：心理教育 eラーニング ブレンド・ラーニング プログラム評価 心理社会的アプローチ 精神科
リハビリテーション 精神看護学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これからの精神医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念に基づいて、精神障害者の地域移行を加速すると同時に、精神障害者にとっての質の高い地域生活の維持に取り組む必要がある。特に、後者を実現するには、患者の服薬アドヒアランスの改善を目指す心理教育の方法を、看護師に普及することが重要であると考えた。

そこで、eラーニングと集合教育を組み合わせた Blended Learning Systems (BLS) を導入し、フレキシブルな学習形態による心理教育に関する知識基盤の形成と、心理教育の技術的側面の修得を支えるシステムが構築できれば、質の高い心理教育を実践することができる看護師を育成できると考えた。

2. 研究の目的

(1) アクティブラーナーとしての心理教育実践看護師を育成する BLS を構築する。

(2) 構築した BLS が、看護師の心理教育実践能力 (知識・感情・価値・意欲・技術) の向上に寄与するかを多角的に評価する。

3. 研究の方法

(1) eラーニングシステムの構築過程: eラーニングシステム構築経験者を中心に ICT 専門業者と綿密な検討を行い、精神科看護師が個々のスケジュールおよび学習ペースに合わせて主体的に学習できる学習管理システムの整備、心理教育の実践に関する知識の修得を支えるコンテンツの作成、を行った。

(2) 実技演習フィードバックツールの整備: 心理教育に関する技術的側面の修得を支えるために、心理教育の実技演習風景を撮影し、それをリアルタイムで繰り返し視聴し、後に eラーニングシステム上で視聴して復習できる環境を整備した。

(3) 心理教育実践看護師を育成する BLS の適用と評価: 対象者は精神医療機関に勤務する看護師、介入は eラーニングによる事前学習と実技演習を行なう集合教育からなる BLS とした。データ収集時期は、eラーニング開始直前 (1 回目)、eラーニングの最終テスト終了直後 (2 回目)、1 回目の集合教育直後 (3 回目)、2 回目の集合教育直後 (4 回目) の 4 時点とした。測定用具は、KIDI (知識)、GSES (感情)、PISN (価値)、仕事意欲測定尺度 (意欲)、心理教育実践技術に関する自作質問紙 (技術) を使用した。解析には、SPSS22.0 for Windows を使用して、Wilcoxon の順位和検定と反復測定分散分析を用いた。

4. 研究成果

対象者は、53 名 (男性 25 名、女性 28 名)、平均年齢 38.604 (± 9.351) 歳、平均看護師経験年数 12.885 (± 9.057) 年、うち平均精神科経験年数 8.885 (± 7.037) 年であった。

(1) BLS の有用性評価

BLS そのものの有用性を評価するために、反復測定分散分析を行った。その結果、知識については、KIDI 総合得点 ($F(1.296, 67.380) = 10.686, p < .01$)、KIDI 下位尺度疾病 ($F(1.347, 70.064) = 14.401, p < .01$)、下位尺度薬物 ($F(1.283, 66.714) = 7.364, p < .05$) であり、いずれも有意に低下した。感情については、GSES 総合得点 ($F(2.401, 76.836) = 8.034, p < .01$) と有意に低下した。価値については、EBPAS 下位尺度 Openness ($F(1.539, 80.052) = 25.448, p < .01$)、Divergence ($F(1.408, 73.197) = 32.882, p < .01$)、Appeal ($F(1.343, 69.841) = 24.924, p < .01$)、Requirements ($F(1.628, 84.637) = 24.345, p < .01$) であり、いずれも有意に低下した。意欲については、WMMSN 総合得点 ($F(1.270, 64.756) = 14.288, p < .01$)、ISPN 総合得点 ($F(1.292, 65.895) = 13.422, p < .01$) であり、いずれも有意に低下した。さらに、技術については、Skill 総合得点 ($F(1.261, 64.303) = 11.024, p < .01$) と有意に低下した。

(2) 実技演習に焦点を当てた有用性評価

BLS 全体の評価は好ましくなかったが、心理教育の実技演習においては好ましい変化がみられたことから、実技演習に焦点を当てて、参加前後の変化について Wilcoxon の順位和検定を行った。その結果、価値は EBPAS 下位尺度の Openness ($p < .01$)、Appeal ($p < .01$) へと有意に向上し、意欲は WMMSN 総合得点 ($p < .01$) および ISPN 総合得点 ($p < .05$) において有意に向上し、技術は自作質問紙総合得点 ($p < .01$) が有意に向上した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 5 件)

Ayumi Kohno & Mitsunobu Matsuda (2018): Willingness to Interact After Therapeutic Recreation in a Patient with Schizophrenia, Archives of Psychiatric Nursing, 査読有, 32(1), 12-18.

Mitsunobu Matsuda & Ayumi Kohno (2016): Japanese Psychiatric Nurses' Attitudes toward EBP: Association with Needs for Learning Psychoeducation Practices, *European Journal for Person Centered Healthcare*, 査読有, 4(2), 352-358.

Mitsunobu Matsuda & Ayumi Kohno (2016): Effects of the nursing psychoeducation program on the acceptance of medication and condition-specific knowledge of patients with schizophrenia, *Archives of Psychiatric Nursing*, 査読有, 30(5), 581-586.

松田光信 (2016): 大学から精神科病院へのアウトリーチ～看護実践としての心理教育を用いて～、*大阪市立大学看護学雑誌*、査読無、12(1) 60-61.

Mitsunobu Matsuda & Ayumi Kohno (2015): Development and Evaluation of a Psychoeducation Practitioner Training Program (PPTP), *Archives of Psychiatric Nursing*, 査読有, 29(4) 217-222.

〔学会発表〕(計 12 件)

松田光信 (2019): 大会長講演「深める、高める、広める心理教育 ～看護からの挑戦～」、*日本心理教育・家族教室ネットワーク第22回研究集会* (大阪大会)。

内野俊郎、松田光信 (2019): 分科会 統合失調症を持つ当事者への心理教育～入門編～、*日本心理教育・家族教室ネットワーク第22回研究集会* (大阪大会)。

松田光信、河野あゆみ、佐藤史教 (2018): 共生社会の構築を支える心理教育の姿勢、*日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会* (東京)。

Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda (2018): Development and Usefulness of a Blended Learning-based Psychoeducation Practitioner Training Program - Improvements in Nursing-Related Competency-, 19th International Mental Health Conference, RACV Royal Pines, Gold Coast, Queensland.

松田光信、河野あゆみ (2017): 心理教育実践者の姿勢を構成する要素の検討、第27回日本看護科学学会学術集会 (宮城)。

河野あゆみ、松田光信 (2017): 統合失調症患者に対する看護師版心理教育の有用性検討～服薬に関する意識ならびに知識の変化～、第27回日本看護科学学会学術集会 (宮城)。

Mitsunobu Matsuda, Ayumi Kohno (2017): Factors influencing the awareness of medication adherence among inpatients with schizophrenia in acute psychiatric units in Japan - A basic study with a focus on patients' participation in psychoeducation -, 2017 ISPN Psychopharmacology Institute and Annual Conference, Baltimore, MD, USA.

Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda (2017): Changes in the willingness of a schizophrenic patient participating in therapeutic recreation to interact with others -analysis using the theory of symbolic interactionism-, 2017 ISPN Psychopharmacology Institute and Annual Conference, Baltimore, MD, USA.

Mitsunobu Matsuda, Ayumi Kohno (2016): Developing a Blended Learning-based System to Nurture Nurses with Psychoeducation Skills - Trial Use of an Original e-Learning System -, 5th European Conference on Mental Health, Prague.

Ayumi Kohno, Mitsunobu Matsuda (2016): Development process of a therapeutic recreation program to enhance the motivation of long-term schizophrenic inpatients to interact with others, 5th European Conference on Mental Health, Prague.

松田光信、河野あゆみ (2015): 統合失調症患者本人に対する心理教育の効果～服薬に関する知識とアドヒアランスに焦点をあてて～、第35回日本看護科学学会学術集会 (広島)。

Mitsunobu Matsuda & Ayumi Kohno (2015): Evaluation of a Psychoeducation Practitioner Training Program (PPTP), *Sigma Theta Tau International, 43rd Biennial Convention*, Las Vegas, Nevada, USA.

〔図書〕(計 1 件)

看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 (編著: 山本勝則、藤井博英、守村洋 / 分担執筆: 松田光信、河野あゆみ) メヂカルフレンド社、317 (15-28、155-161、188-192、199-205、254-287) 2015.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.nurs.osaka-cu.ac.jp/seishinkango/>

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：河野 あゆみ
ローマ字氏名：(KOHNO, ayumi)
所属研究機関名：大阪市立大学
部局名：看護学研究科
職名：准教授
研究者番号（8桁）：20401961

(2)研究協力者

研究協力者氏名：前川 泰子
ローマ字氏名：(MAEKAWA, Yasuko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。